

令和元年度

尾瀬山の鼻・尾瀬沼ビジターセンター 運営記録

施設位置図

尾瀬山の鼻ビジターセンター運営記録

コラム「尾瀬ボランティア」

尾瀬沼ビジターセンター運営記録

コラム「尾瀬自然解説ガイド」

コラム「一般の方から寄せられた声」

… 1

…11

…12

…22

…23

巻末資料

ビジターセンター傷病者対応事例

尾瀬のできごとをふりかえる

令和元年シーズンの尾瀬トピックス

尾瀬保護財団の沿革と概要

ビジターセンターの自然体験プログラム

…24

…25

…28

…29

公益財団法人 尾瀬保護財団

ビジターセンター位置図



尾瀬山の鼻ビジターセンター

〒378-0411 群馬県利根郡片品村大字戸倉字中原山898-9



尾瀬沼ビジターセンター

〒967-0532 福島県南会津郡檜枝岐村字燧ヶ岳1 番地



ビジターセンターまでの交通案内

尾瀬山の鼻ビジターセンターまでは・・・

- ・群馬県片品村の鳩待峠から徒歩で約 60 分。
- ・鳩待峠まではふもとの戸倉から乗合バス・タクシーで約 25 分

尾瀬沼ビジターセンターまでは・・・

- ・福島県檜枝岐村の沼山峠休憩所から徒歩で約 60 分
- ・沼山峠まではふもとの御池から乗合バスで約 20 分

令和元年度 尾瀬山の鼻ビジターセンター運営記録

I. ビジターセンター管理運営

群馬県が設置した尾瀬山の鼻ビジターセンター（以下、山の鼻VC）の管理運営を平成8年度から受託しています。

1. 運営期間

(1) 職員駐在：平成31年4月16日(火)～令和元年11月6日(水) (205日間)

(2) 開所期間：令和元年5月16日(木)～令和元年10月28日(月) (166日間)

(3) 休館日：なし

※4月16日～5月15日は開所準備等(除雪・開設準備・公衆トイレ管理、仮オープン等)、
10月29日～11月6日は閉所作業等です。

2. 取扱時間

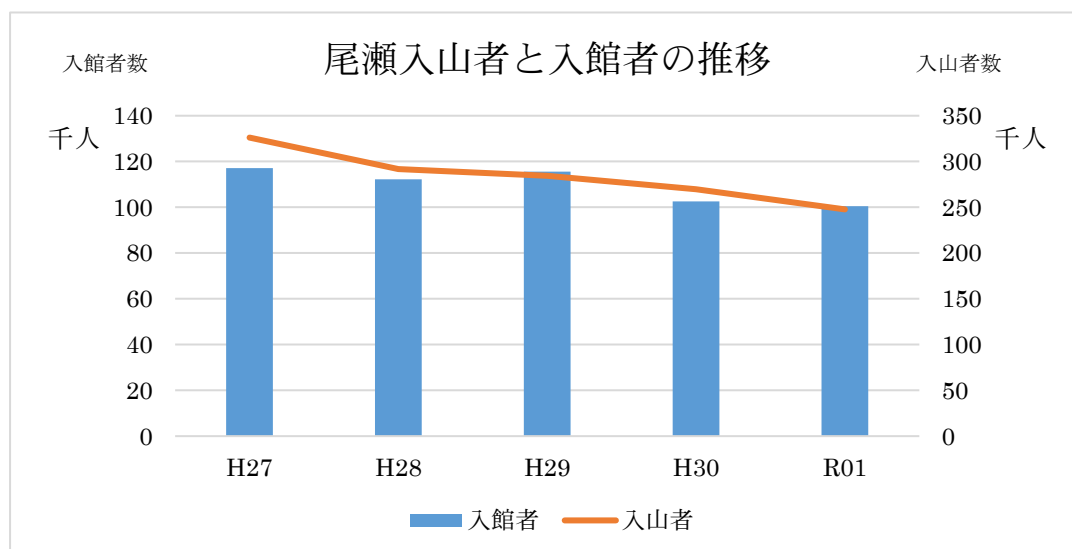
(1) 施設開館 7:00～18:00

(2) 窓口案内 7:30～16:00

※開館・窓口案内の時間は、入山者の状況に応じて柔軟に対応しています。

3. 入館者数 ※(内)は尾瀬国立公園入山者数(単位:人)

令和元年度	100,517	(247,700)
平成30年度	102,550	(269,700)
平成29年度	115,578	(284,390)
平成28年度	112,209	(291,860)
平成27年度	117,142	(326,100)
平成26年度	117,411	(315,400)



職員構成

(1) 人数 9 人 ※うち 2 人 (*) は群馬県職員

(2) 構成

職	氏 名	主な分掌業務
所 長	小 川 浩 司	全体統括
管 理 員	笹 原 宗 利	統括補助、環境学習指導、自然解説、施設管理
管 理 員	菅 原 興 晴	登山道整備、情報収集、館内展示管理、自然解説、窓口対応
管 理 員	坂 上 修 司	登山道整備、情報収集、クマ対策、窓口対応、自然解説
管 理 員	榊 本 隆 史	情報収集、館内展示管理、自然解説、窓口対応
管 理 員	萩 原 舞	情報収集、館内展示管理、自然解説、窓口対応
管 理 員	柴 崎 恵	情報収集、館内展示管理、自然解説、窓口対応
* 副主幹	中 山 寛 之	管理運営、自然解説（駐在期間 5 月の 2 週間）
* 主 任	菅 尚 子	管理運営、自然解説（駐在期間 6 月の 2 週間）

Ⅱ 自然解説事業

尾瀬を訪れる利用者に、自然とのふれあいを通じて尾瀬にふさわしい利用方法を啓発するとともに、豊かな自然の大切さを意識してもらうことを目的としています。

そのため、山の鼻 V C 内の展示室及びレクチャールーム、野外掲示板等を利用し、入山者に対する自然解説及び利用案内を実施しました。

表 令和元年度 自然解説活動のまとめ

区分	自然観察会	スライドショー	環境学習ニガイト ツアー	団体レクチャー
参加者数（人）	323(88.7%)	1,158(86.0%)	78(55.7%)	247(99.2%)
実施回数（回）	38(42)	47(49)	29(36)	9(7)

※ 表中カッコは、上段（％）が前年度比、下段（数値）が前年度実績回数

1. 自然観察会(写真 1)

土日、祝日を中心に、尾瀬植物研究見本園をフィールドとして実施しました。

- ①. 実施場所：尾瀬植物研究見本園
- ②. 実施時間：7:15～8:00
- ③. 担 当 者：山の鼻 V C 職員

2. スライドショー(写真 2)

自然観察会と同様の期間で開催しました。主に山小屋宿泊者を対象とし、季節写真や図表等、プレゼンテーションソフトを用いて担当者が解説することで、尾瀬への理解を深めてもらいました。

また、開催案内を山小屋宿泊者の夕食時間に合わせる等、集客に努めました。

- ①. 実施場所：山の鼻 V C 内のレクチャールーム
- ②. 実施時間：18:30～19:10
- ③. 担 当 者：山の鼻 V C 職員

3. 環境学習ミニガイドツアー(写真3)

山の鼻V C周辺での解説者(ガイド)付きの自然観察を含む環境保全施設見学ミニツアー(環境学習ミニガイドツアー)を行いました。

施設の見学ツアーについては、山ノ鼻地区の公衆トイレをメインに排水処理のしくみや汚泥処理作業、また、環境を守るためには多くの費用がかかることなど、環境保全への取り組みについて説明しています。

- ①. 実施日: 5月下旬～10月中旬までの毎日
- ②. 実施場所: 山の鼻V C周辺の県有施設、研究見本園及びその周辺
- ③. 対象者: 家族連れ等の少人数のグループ及び学校等の教育旅行団体
- ④. 実施時間: 一行程あたり1時間以内
- ⑤. 担当者: 山の鼻V C職員、環境学習指導員、尾瀬ボランティア等

4. 団体レクチャー

事前に依頼を受けた学校関係者や尾瀬を勉強している社会人グループに対して、スライドショーや自然観察会を開催し、環境保全の取り組みや自然への理解を深めていただきました。

5. 館内解説

不定期で館内展示物の利用案内を含めた解説を、職員や尾瀬ボランティアが実施しました。

6. 展示

- ①. 自然情報システムによる花・動植物等尾瀬情報の検索
 - ②. 植物の開花や鳥などの観察ポイント、登山道の危険箇所などの情報提供
 - ③. 気象情報を館内や野外掲示板に表示(天候・最高最低気温・各種注意報等)
 - ④. 写真による代表的な植物や、尾瀬内各地域の様子 of 展示
 - ⑤. 時節ごとの観察ポイントを紹介した写真・イラスト・星座の展示
 - ⑥. 尾瀬に生息する動物の剥製、毛皮、骨の展示
 - ⑦. " 「鳥の鳴き声タッチペン」を活用した、野鳥コーナーの設置
 - ⑧. 学習用顕微鏡を活用し、トンボ・チョウなどの観察コーナーを設置
 - ⑨. バス・電車などの公共交通機関の情報提供
 - ⑩. 至仏山を構成する蛇紋岩の展示、及び蛇紋岩性質の体験コーナー
 - ⑪. オコジョ、ヤマネコーナー(写真、目撃情報の紹介)の展示
 - ⑫. ニホンジカ(生態、尾瀬への影響、対策等の紹介)の展示
 - ⑬. 写真展示コーナーの設置(野鳥、植物)
 - ⑭. ツキノワグマコーナー(生態、目撃情報、対策等の紹介)の展示
 - ⑮. 尾瀬国立公園のジオラマ、レリーフマップの設置
 - ⑯. 入山者が撮影した尾瀬の思い出をプリントし、貼り出す「思い出コーナー」を設置
 - ⑰. 尾瀬保護財団としてのイベント情報の表示
- 入館者目線でレイアウトを考え、常により良いレイアウト変更を行いました。

7. 自然情報等の収集・提供

利用者への情報提供や解説資料充実のため、職員が定期的に尾瀬ヶ原、至仏山、アヤメ平を巡回し、登山道や動植物の状況を調査しました。その結果を「尾瀬情報」としてまとめ、尾瀬周辺の各施設、財団ホームページ、関係各機関へ提供しました。

また、毎朝の天候、最低最高気温、学校団体の入山情報及び、毎日のトピックスを「今朝の尾瀬山ノ鼻」、「今日の尾瀬」として毎日、ブログで情報発信を行いました。

放射線量の測定を山の鼻V C前で週1回（毎週月曜日）、牛首分岐等の尾瀬内3ヶ所は巡回に合わせて実施し、その結果を財団ホームページで公表しました。

Ⅲ. その他の公園施設等の維持管理（写真4）

尾瀬保護財団では、山の鼻V Cの他に、群馬県が整備した、山の鼻公衆トイレ（山ノ鼻地区）、竜宮公衆トイレ（竜宮地区）および群馬県所管の木道・橋等を、平成8年度から管理受託しています。

1. 山の鼻公衆トイレ

山の鼻公衆トイレ及び、合併浄化槽の管理状況は以下のとおりです。

①. 供用期間

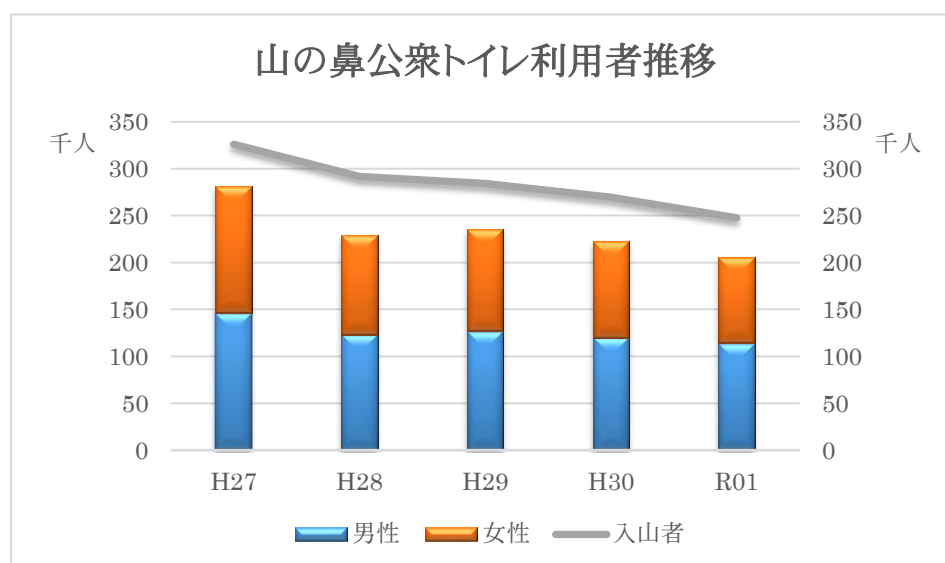
平成31年4月20日～令和元年11月5日（200日間）

※4月20日～5月15日、10月28日～11月5日の間は男女兼用として開設

②. 利用者数(単位：人)

令和元年度の山の鼻公衆トイレ利用者数は、前年度比92.4%。

年度	男性	女性	入山者
H27	146,134	135,057	326,100
H28	123,369	106,052	291,860
H29	126,703	108,154	284,390
H30	120,104	102,770	269,700
R01	114,032	91,859	247,700



(7) 清掃

1日1回の定時清掃のほか、随時点検を実施し、きめ細かな清掃を行うことで快適な利用環境に配慮しました。また、施設周辺の美化巡回も含めてゴミのない公衆トイレをめざしました。

(イ) 点検

繁閑を考慮したペーパー補給や巡回を行い、快適な環境を維持しました。

(ウ) 合併処理浄化槽の維持

専門業者による定期的な保守・点検作業のほか、異臭や異状の有無を把握するように努めました。

(エ) 啓発活動

トイレ施設の環境保護に対する取り組みの紹介、協力金についての掲示を作成しました。

2. 竜宮公衆トイレ

竜宮公衆トイレ及び、合併処理浄化槽の維持管理業務を専門業者により実施しました。

職員は、定期的に協力金の回収と清掃やその他管理状況の点検を行いました。

3. 木道

群馬県管理木道のうち、老朽化等により通行に支障がある箇所について、状況を確認しながら補修を行いました。

①. 横田代地区

通行時の危険箇所を補修しました。

②. 下ノ大堀地区

下ノ大堀川橋の前後36基の腐朽箇所を定点観察するとともに、危険箇所の啓発看板の設置、及び補修を実施しました。

③. 木道劣化診断研修を実施(5/10)

IV. 植生 復元等の事業の実施

1. 荒廃した湿原の植生復元作業地の経過観察

群馬県尾瀬保護専門委員会からの依頼を受けて、平成16～18年度に施工した植生復元作業地の回復状況についての経過観察を巡回時に実施しました。

①. 実施場所：横田代 標高約1,880m付近

②. 実施回数：巡回時随時

③. 実施内容：平成18年度に設置した観察区(5区)について経過観察としての写真撮影

2. 至仏山保全対策の各種取り組み(写真5)

当財団が設置する至仏山保全対策会議において、植生保護・登山者安全の観点から、至仏山東面登山道を山ノ鼻登山口からの上り利用とし、下りでの使用は禁止としているため、注意看板の設置など啓発活動を実施しました。

山の鼻V.Cでは各登山口への注意看板の設置、各山小屋等への情報提供を行い、東面登山道の踏み出し防止柵の設置・撤去及び、登山道の補修作業については、尾瀬ボランティアの協力の下、作業を実施しました。

V. 巡回活動の実施

歩道の安全確保、自然情報・利用情報収集、利用者への案内・解説・啓発、美化清掃等を目的に実施しました。

1. 巡回のエリアと頻度

- ①. 竜宮方面 : 1 回／週
- ②. 見晴方面 : 1 回／週
- ③. 赤田代方面 : 1 回／週
- ④. 三条ノ滝方面 : 2 回／月
- ⑤. 至仏山方面 : 2 回／月
- ⑥. 長沢～アヤメ平方面 : 1 回／月
- ⑦. 見晴～アヤメ平方面 : 1 回／月

VI. その他

1. 収入金の管理

パンフレット協力金、募金、公衆トイレチップ等による現金収入を集計・管理しました。

2. 開所式の実施（写真 6）

本年度の山の鼻 V C の開所式を、令和元年 5 月 14 日に開催しました。

尾瀬の関係者や山小屋のご主人など尾瀬に関わる方々の他、登山者など一般の方にも多数参加していただき、盛況となりました。

また、尾瀬ボランティアによるハーモニカや草笛の演奏をしていただきました。

3. 尾瀬ボランティアの活動支援

シーズンを通じた入山口啓発活動やシーズン終盤の「ありがとう尾瀬清掃活動」のコーディネート、現地窓口としてのボランティア活動支援を行いました。（尾瀬ボランティアについては、P. 11 のコラムを参照してください）

4. 傷病事故の対応（写真 7）

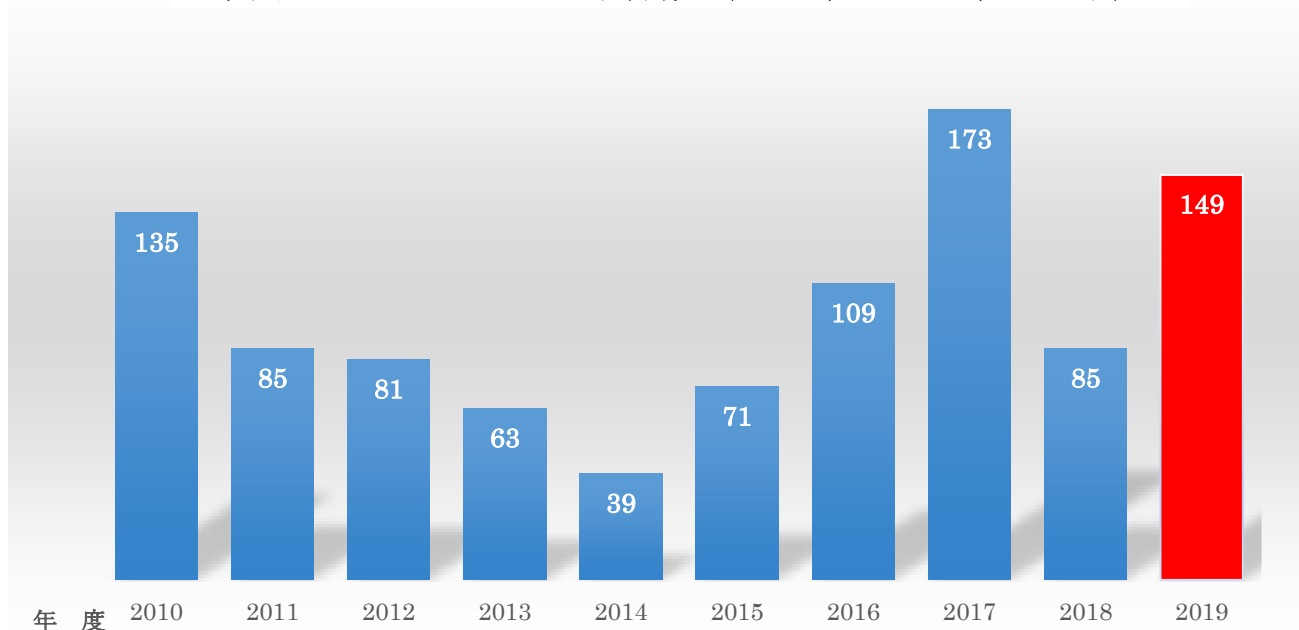
山の鼻 V C で扱った今年度の傷病事故件数は 31 件（平成 30 年度は 40 件）ありました。山の鼻 V C 窓口での簡易な手当や、片品村遭難対策救助隊の臨時隊員として協力した件数が含まれます。※18 年度(9 月中旬)より AED(体外式自動除細動器)を山の鼻 V C に設置。

尾瀬ヶ原地区（群馬県側）救助体制の流れを整理し、迅速な救助体制が整えられるよう準備しています。（救急連絡系統図、対応等作成）（巻末資料 1 「傷病者対応事例」 P. 24 もあわせてご覧ください）

5. ツキノワグマ対策（写真8）

ツキノワグマ対策員に任命された職員が、ツキノワグマ出没対応マニュアルに基づいて対策を行いました。職員は令和元年5月11日にツキノワグマ対策研修を受けるとともに、一般客からの目撃情報の収集や普及啓発、笹や葎などの刈払い作業等に協力した他、巡視や追い払いを行いました。本年度は昨年と比較して目撃件数は増加となりました。

年度別ツキノワグマ目撃件数（2010年～2019年10月末）



6. ゴミの計量及び域外搬出

群馬県のゴミ処理方針に基づき、山の鼻VCから発生したゴミは、尾瀬地域から域外搬出して処理しました。なお、今年度の総搬出量は692 kg（前年度664 kg）となりました。

7. 定時気象観測

5月31日～10月30日までの毎日、9時と15時に視程・雲量等の目視観測を行うとともに、山ノ鼻地区に設置した気象観測機器で気温・降雨量などの観測を行いました。

8. ニホンジカ対策（写真9）

群馬県尾瀬保護専門委員会からの依頼を受け、深刻化するニホンジカによる湿原植生等の食害被害を把握するために、研究見本園などの攪乱地において防鹿柵の設置・撤去を行い、定期的な巡視・点検を実施しました。



(写真 1)

【自然観察会】

土日、祝日を中心に、尾瀬植物研究
見本園をフィールドとして実施。

時間：7:15～8:00

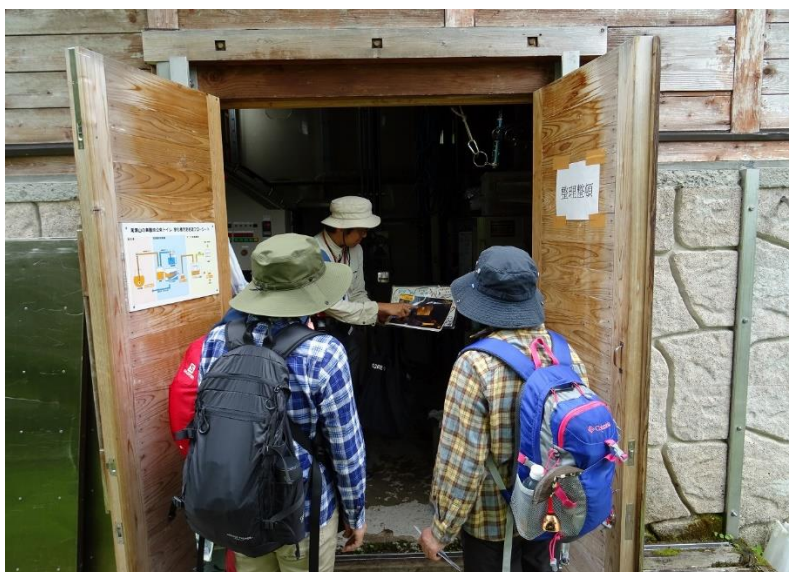


(写真 2)

【スライドショー】

土日、祝日の前夜を中心に、山の鼻
VCのレクチャールームにて実施。

時間 18:30～19:10



(写真 3)

【環境学習ミニガイドツアー】

山ノ鼻地区の排水処理のしくみな
ど、環境保全への取り組みについて
説明。

時間：随時受付 60 分以内



(写真 4)

【施設等の維持管理】

木道の状況に応じて、簡易な補修を実施



(写真 5)

【至仏山保全対策の取組】

踏み出し防止柵の設置
至仏山東面登山道、笠ヶ岳の一部で実施



(写真 6)

【尾瀬山の鼻VC開所式】

5月16日、財団関係者や山小屋関係者、登山者等の参加により開催

(写真7)

【傷病事故の対応】

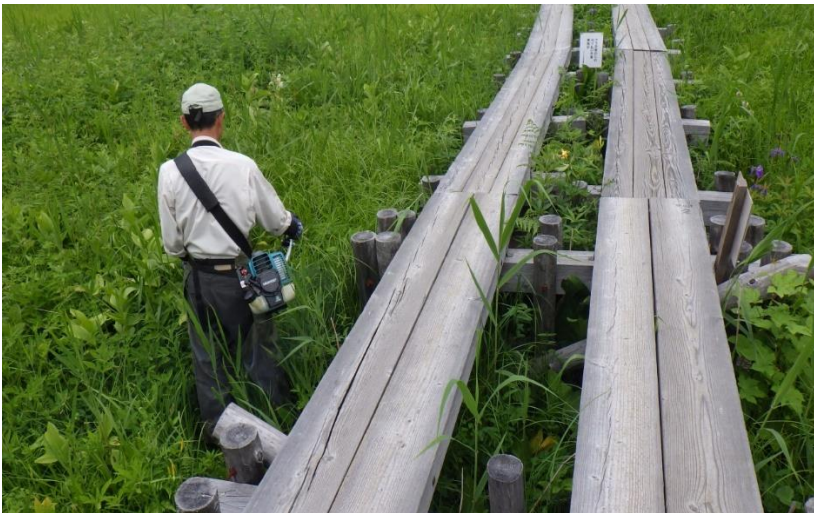
防災ヘリコプターで搬送するため、
消防隊員が傷病者にハーネスの装着
等を準備



(写真8)

【ツキノワグマ対策の取組】

人とツキノワグマが不意に遭遇する
危険を減らすため、刈り払いを実施
(尾瀬植物研究見本園)



(写真9)

【ニホンジカ対策の取組】

尾瀬ヶ原での防鹿柵の設置



コラム 尾瀬ボランティア

～ ビジターセンター運営充実を目指すパートナー ～

全国から集まるボランティア

尾瀬ボランティアは主に利用者に対する自然保護思想の普及啓発、美化清掃を行うために（公財）尾瀬保護財団が募集を行い、平成8年6月から組織されています。呼びかけの結果、全国から**328人**が登録され活動しています。

多くの活動形態

尾瀬ボランティア活動には大きく分けてプロテクターの活動と、インタープリターの活動があります。それぞれの主な活動メニューは次のとおりです。

（プロテクターの活動）

入山口（鳩待峠、沼山峠、大清水等）での啓発活動
入山口周辺や尾瀬ヶ原、尾瀬沼周辺等での美化巡回
至仏山東面登山道整備 等

（インタープリターの活動）

お話しボランティア活動（定点解説）
ビジターセンター支援ボランティア活動 等

現在の登録状況

328人（R02年1月31日現在）

内訳：17都府県（群馬県**137人**、東京都**47人**、埼玉県**35人**、神奈川県**28人**、千葉県**25人**他）

平均年齢 **64.9歳**（最年長**89歳**、最年少**19歳**）

年度ごとの取り組み

（括弧内は参加のべ人数）▼

	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
登録者数	582人	508人	558人	574人	500人	511人	514人	373人	384人	360人	367人	348人
入山口啓発活動	44日(524)	30日(625)	36日(635)	36日(538)	32日(508)	34日(371)	33日(312)	29日(311)	33日(294)	27日(291)	27日(249)	25日(177)
スبott解説			3日(24)	10日(83)	15日(112)	15日(99)	16日(85)	15日(88)	19日(75)	19日(73)	19日(63)	19日(44)
移入植物除去			2日(31)	2日(29)	2日(29)	2日(14)	2日(9)	2日(11)				
植生復元※11				22人	11人	16人	9人	13人	13人	12人	16人	13人
その他	※1	※2	※3,4	※5,6	※7,8	※9			※10			※12

	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	R01年度
登録者数	363人	355人	365人	340人	347人	311人	287人	295人	323人	312人	335人	328人
入山口啓発活動	29日(153)	45日(146)	45日(114)	44日(135)	48日(126)	40日(98)	40日(115)	34日(96)	32日(116)	33日(118)	31日(98)	26日(67)
スボット解説	42日(43)	28日(56)	33日(58)	20日(34)	25日(35)	27日(32)	18日(25)	8日(15)	16日(26)	10日(22)	16日(24)	15日(21)
移入植物除去										3日(15人)	4日(9人)	3日(12人)
植生復元※11			3人	5人	5人	7人	5人	8人				
その他										※13	※14,15	

その他

- ※1 尾瀬クリーン大作戦（以降「ありがとう尾瀬清掃」として継続）
- ※2 鳩待峠路上駐車防止（現在は休止）
- ※3 至仏山登山道整備（以後継続）
- ※4 沼山峠に「尾瀬ボランティア活動詰所」設置
- ※5 啓発活動従事者講習会
- ※6 尾瀬ボランティア帽子配布
- ※7 県道沼田、檜枝岐線の植生回復作業（現在は休止）
- ※8 お話しボランティア用の旗作成
- ※9 鳩待峠に「尾瀬ボランティアハウス設置」
- ※10 各入山口ボランティアハウスに活動用の腕章を配備
- ※11 15年度までは至仏山、16～18年度は横田代、19年度は燧ヶ岳、22～27年度は至仏山で実施
- ※12 ビジターセンター支援ボランティア活動開始
- ※13 三平峠付近での桟木打ちボランティア活動開始
- ※14 鳩待峠での群馬県看板の色塗作業の実施
- ※15 大江湿原でのシカ柵設置・撤去補助作業開始

～ 尾瀬ボランティアのみなさま、これからも充実した運営のためにご協力をお願いします ～

令和元年度 尾瀬沼ビジターセンター運営記録

I. ビジターセンター管理運営

環境省の所管施設である尾瀬沼ビジターセンターの管理運営を平成8年度から受託しています。
(但し、平成26年度を除く。)

1. 運営期間

- (1) 職員駐在：令和元年5月14日(火)～令和元年11月1日(金) (172日間)
- (2) 開所期間：令和元年5月18日(土)～令和元年10月31日(木) (167日間)
- (3) 休館日：なし

※5月14日～5月17日は開所準備等、11月1日は閉所作業等です。

2. 取扱時間

- (1) 施設開館 7:30～16:00
- (2) 窓口案内 7:30～16:00

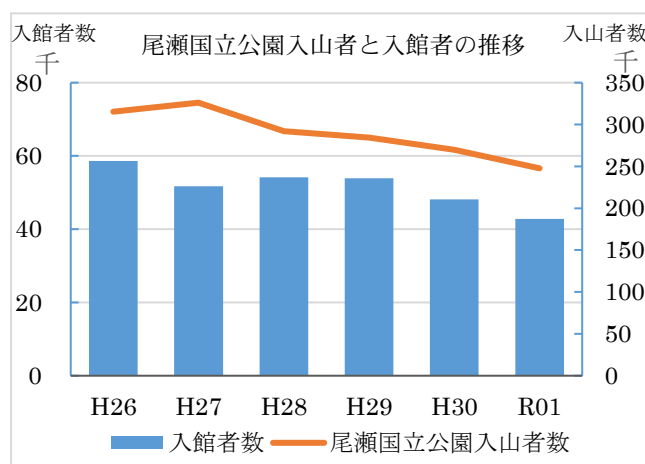
3. 入館者数

42,819 人

※参考(尾瀬国立公園入山者 247,700)
過去5年間の入館者数と尾瀬国立公園入山者数

	入館者数	尾瀬国立公園入山者数
平成30年度	48,099	(269,700)
平成29年度	53,912	(284,390)
平成28年度	54,189	(291,860)
平成27年度	51,762	(326,100)
平成26年度	58,599	(315,400)

(単位:人)



4. 職員構成

- (1) 人数 8 人
- (2) 構成

職	氏 名	主な分掌業務
責任者	阪路 善彦	全体統括、金銭出納、防火管理
副責任者	中馬 慎二	統括補助、事務局調整、勤務・休暇管理、報道、月報
管理員	川上 藍	イベント、公衆トイレ
管理員	加藤 樹	日報管理、傷病記録、アンケート管理
管理員	大澤 未奈	展示、ボランティア支援、機関紙
管理員	松田 幸弘	電話対応管理、クマ情報管理、運搬管理、
管理員	米山 英人	団体レクチャー、遺失物管理、植生復元
管理員	石川 知怜	窓口対応管理、パンフ管理、収入金管理、食事

Ⅱ. 自然解説事業等

利用者に向けて尾瀬にふさわしい利用方法を啓発するとともに、豊かな自然の一端に触れ、自然の大切さを認識してもらうことを目的とし、ビジターセンター周辺とビジターセンター館内の展示室、レクチャールーム室及び掲示板等を利用し、自然解説や利用案内等を実施しました。

表 令和元年度 自然解説活動のまとめ

区分	自然観察会	夜のイベント	拡大イベント	見晴イベント	団体レクチャー
参加者数(人)	700 (76.0%)	1,486(80.1%)	362 (159.5%)	194 (127.6%)	515 (65.9%)
実施回数(回)	150 (157)	66 (66)	42 (8)	10 (9)	17 (21)

※1 表中カッコは、上段(%)が前年度比、下段(数値)が前年度実施回数。

- 2 自然観察会には、尾瀬を知るミニツアー及び朝イチ観察会を含む。
- 3 夜のイベントには、スライドショー及び「職員が語る尾瀬のあれこれ」、「星空観察会」、「お月見会」等を含む。
- 4 拡大イベントには、「あの人に学ぶ尾瀬」及び「シカ革を使ったワークショップ」、「秋の特別授業」、「来館者達成イベント」等を含む。
- 5 見晴イベントには、見晴スライドショー及び見晴観察会を含む。

1. 自然観察会(写真1)

尾瀬を感じるミニツアーは日中1回、朝イチ観察会は日曜日を基本とし、月曜日が祝日の場合には月曜日に実施しました。

- ①. 実施場所：大江湿原や尾瀬沼ビジターセンター周辺
- ②. 実施時間：9:30～10:00(尾瀬を感じるミニツアー)、7:30～8:15(朝イチ観察会)
- ③. 担当者：尾瀬沼ビジターセンター職員

2. 夜のイベント(写真2)(写真3)

土日祝日の前夜等に主に山小屋宿泊者を対象として、季節写真や図表等を用いた通常のスライドショーの他に「職員が語る尾瀬のあれこれ」と題して各職員が得意とするいろいろなテーマでのイベントを行いました。さらに星空観察会、お月見会等を実施することで、尾瀬への理解と興味を深めてもらいました。

- ①. 実施場所：尾瀬沼ビジターセンターのレクチャールーム及びビジターセンター周辺
- ②. 実施時間：19:00～19:45 (星空観察会の一部は、日没時間を考慮し 18:30 から実施)
- ③. 担当者：尾瀬沼ビジターセンター職員

3. 拡大イベント

上記 1. 2. とは別に拡大イベントとして「あの人に学ぶ尾瀬」及び「山のスライドショー三本立て」、「尾瀬から暑中見舞いを出そう」、「手ぬぐいワークショップ」、「紅葉ウォーキング」、「来館者達成イベント」等を実施しました。

(1)「あの人に学ぶ尾瀬」

利用者に尾瀬の魅力を再発見してもらうために、外部講師を招いてイベントを開催しました。

第1回「尾瀬高校を知っていますか？」

尾瀬に特化した授業やシカ対策調査などの取組みの紹介をしていただきました。

- ①. 実施場所：尾瀬沼ビジターセンターのレクチャールーム
- ②. 実施日：8月19日(月)18:45～19:30
- ③. 外部講師：群馬県立尾瀬高校 生徒4名

第2回「歩荷さんを知っていますか？」(写真4)

歩荷さんと参加者との質疑応答や本物の背負梯子を使った歩荷体験を行いました。

- ①. 実施場所：尾瀬沼ビジターセンターのレクチャールーム
- ②. 実施日時：9月22日(日)19:00～19:45
- ③. 講師：歩荷 渡部 努氏

第3回「植生回復の取り組みを知ろう」(写真5)

人の踏付けなどで破壊された湿原への植生回復の取り組みについて話していただきました。

- ①. 実施場所：尾瀬沼ビジターセンターのレクチャールーム
- ②. 実施日時：9月28日(土)19:00～20:00
- ③. 講師：尾瀬保護専門委員 吉井広始先生

(2)「山のスライドショー三本立て」(写真6)

山の日の特別企画として、尾瀬の主要な3つの山について3日続けて1山ずつの紹介を行った。

- ①. 実施場所：尾瀬沼ビジターセンターのレクチャールーム
- ②. 実施日時：8月9日(金)から8月11日(日) 18:45～19:30
- ③. 講師：尾瀬沼ビジターセンター職員

(3)「手ぬぐいワークショップ」(写真7)

無地の手ぬぐいに尾瀬の植物、動物などのオリジナルの型紙を使い、色鮮やかな手ぬぐい作りを行いました。

- ①. 実施場所：尾瀬沼ビジターセンターの展示室
- ②. 実施日時：8月10日(土)から12日(月)、および10月12日(土)から19日(土)
- ③. 担当者：尾瀬沼ビジターセンター職員全員

(4)「来館者35,000人達成イベント」(写真8)

来館者35,000人達成を来館者とともにお祝いしました。

- ①. 実施場所：尾瀬沼ビジターセンター入口
- ②. 実施日時：9月15日(日)
- ③. 担当者：尾瀬沼ビジターセンター職員全員

4. 見晴休憩所でのイベント(写真9)

見晴休憩所においても夜のイベント(スライドショー)及び自然観察会を実施しました。

(1)見晴スライドショー

- ①. 実施場所：見晴休憩所の多目的室
- ②. 実施日時：7月3、18日、8月13、29日、9月8、25日の19:00～19:45
- ③. 担当者：尾瀬沼ビジターセンター職員

(2)見晴観察会

- ①. 実施場所：見晴地区周辺
- ②. 実施日時：8月14、30日、9月9、26日の7:30～8:15
- ③. 担当者：尾瀬沼ビジターセンター職員

5. 団体レクチャー

事前に依頼を受けた学校関係者や尾瀬を勉強している社会人グループに対して、スライドショーや自然観察会を開催し、環境保全の取り組みや自然への理解を深めていただきました。

計：17団体（515人）

6. ビデオ上映

今年度に新たに追加した「尾瀬沼の二十四節気」（約17分）、および尾瀬の四季を紹介した「尾瀬国立公園の四季」（約18分）や「尾瀬国立公園の誕生」（約18分）などのビデオの上映を随時受け付けました。

7. 館内解説

VC開館時間中は、展示室内に人員を配置し、随時館内展示物の利用案内を含めた解説を実施しました。

8. 常設展示（一部抜粋）

- ① 尾瀬沼フィールド情報コーナー（尾瀬沼周辺の最新情報の発信）
- ② 花ごよみ（写真による季節ごとの植物の紹介）
- ③ 尾瀬情報コーナー（巡回等で収集した情報を定型にまとめて掲示）
- ④ 燧ヶ岳と尾瀬沼の誕生（地形の成り立ち、尾瀬沼地域のジオラマ等の展示）
- ⑤ 尾瀬沼のトイレと污水处理（施設、仕組み等を紹介）
- ⑥ オコジョ・ヤマネコーナー（生態、写真、目撃情報等の紹介）
- ⑦ ツキノワグマコーナー（生態、目撃情報、遭遇時の対策等の紹介）
- ⑧ 尾瀬に生息する動物（剥製、毛皮、骨の展示）
- ⑨ 尾瀬・日光のシカ（シカの生態、センサーカメラ調査、頭骨等の紹介）
- ⑩ 尾瀬の野鳥コーナー（生態、鳴き声の紹介）
- ⑪ 尾瀬の樹木（生態、葉や切り株等の展示）
- ⑫ 音風景展示（川の流れや鳥のさえずりなどの自然音を紹介）
- ⑬ 木道コーナー（木道の成り立ち、設置方法等の紹介）

9. 企画展示（写真10）

「平成30年度尾瀬沼ビジターセンター等企画展示物作成業務」請負先業者が作成した展示物①と②の企画展示を行いました。

- ①「冬の尾瀬沼写真展」企画展示

- ②「大江湿原のニホンジカ・空から見た大江湿原」企画展示
(展示期間： 5 月 18 日(土)～10 月 31 日(木))

10. 自然情報等のリアルタイムな収集と発信

巡回範囲の尾瀬沼を中心とした地域や巡回範囲外の会津駒ヶ岳、田代山等の自然情報や利用情報等の収集を行い、得られた情報を利用者及び関係機関等に提供しました。巡回範囲外の尾瀬ヶ原地域については、尾瀬山の鼻V Cなどの関係機関と協力し情報の収集と発信を行いました。収集した情報は、V C館内での掲示及び配布、ブログ、Facebook 等のインターネットにより利用者へ提供しました。また、山小屋や入山口周辺の掲示板や施設、関係機関へは尾瀬山の鼻V C及び本部などと連携し、紙面や電子ファイルなどにより情報を提供しました。

Ⅲ. 施設管理及びその他の業務

1. 傷病者発生時の対応 (写真 1 1)

檜枝岐村遭難対策協議会(尾瀬沼地区本部：尾瀬沼ヒュッテ)の指示により、尾瀬沼地区周辺で発生した傷病者の対応を行いました。対応した件数は以下のとおりです。なお、切り傷等の窓口対応のみの事象も含まれています。

計： 32 件(うち、担架搬送 4 件、ヘリ搬送 5 件)

2. 危険箇所の掲示

巡回などで危険と判断した箇所について、必要に応じて除雪や注意喚起看板、またはロープ柵の設置を行いました。また湿原への踏み込み防止のために、必要に応じてロープ柵等の設置を行いました。また、自然災害等による被害が発生した場合には、現地に注意喚起看板を設置するとともに、関係機関等に迅速な情報提供を行いました。

3. 非常時における公園利用者の誘導及び安全措置の実施 (写真 1 2)

台風や豪雨等の荒天時には、朝方に木道・登山道などの巡視を行い、冠水・倒木等の状況を確認して迅速に関係機関への情報提供を行いました。

また、その他の緊急時においても利用者への情報提供及び注意喚起看板の設置等の必要な対策を行いました。

4. ニホンジカ捕獲業務の補助作業

尾瀬沼周辺で行われるニホンジカ捕獲業務において、シカセンサー受信機による反応の有無確認作業やシカセンサー反応後の現場確認、状況報告を行いました。

Ⅳ. 尾瀬沼ビジターセンター職員が兼務したその他の事業

1. 尾瀬沼集団施設地区公衆便所清掃等業務

尾瀬沼地区運営協議会から委託を受け、尾瀬沼公衆便所の清掃業務等を行いました。

2. 福島県特植事業

(1)尾瀬地区植生復元調査等業務 (写真 1 3)

尾瀬地区の福島県地域における植生復元事業として、雪圧により沈下した調査杭の引き起こし等の管理、外来植物及び平地性植物除去及び堀の清掃作業、シカの食害影響調査等を行いました。

3. 財団自主事業

(1) 尾瀬ボランティア活動支援

入山口啓発活動（沼山口、大清水口）やお話ボランティア活動等におけるコーディネートを行いました。

(2) 外来植物対策事業（写真１４）

外来植物オオハンゴンソウの増殖を防ぐために、小沢平口にて関係機関と連携し除去活動を行いました。



（写真 1）

【自然観察会】

日中一回の尾瀬を知るミニツアーや、日曜日を中心とした朝イチ観察会を尾瀬沼ビジターセンター周辺で実施。

ミニツアー：9:30～10:00

朝イチ観察会：7:30～ 8:15



（写真 2）

【スライドショー】

週末や繁忙時期を中心に、尾瀬沼ビジターセンターのレクチャールームにて実施。

時間：19:00～19:45 45分程度



(写真3)

【星空観察会】

星空観察会のほか、お月見会も実施。

天気がよくない時は、レクチャールームにて解説を実施。

時間：19:00～19:45 45分程度



(写真4)

【拡大イベント】

（歩荷さんを知っていますか）

歩荷の渡部氏を招いて、質疑応答、参加者の歩荷体験を実施。



(写真5)

【拡大イベント】

（植生回復の取り組みを知ろう）

尾瀬保護専門委員の吉井先生を招いて、人の踏付けなどで破壊された湿原への植生回復の取り組みについての講話を開催。



(写真6)

【拡大イベント】

(山のスライドショー三本立て)

山の日の特別企画として、尾瀬の主要な3つの山について3日続けて1山ずつ紹介。



(写真7)

【拡大イベント】

(手ぬぐいワークショップ)

無地の手ぬぐいに尾瀬の植物、動物などのオリジナルの型紙を使い、色鮮やかな手ぬぐい作りを実施。



(写真8)

【拡大イベント】

(来館者 35,000 人達成イベント)

来館者 35,000 人達成を来館者とともにお祝いを実施。



(写真 9)

【見晴イベント】

見晴地区で見晴スライドショー
と朝の観察会を実施



(写真 10)

【企画展示】

「大江湿原のニホンジカ・空か
ら見た大江湿原」



(写真 11)

【傷病事故の対応】

傷病者を担架で搬送。
(大江湿原)



(写真 1 2)

【非常時における安全措置の実施】

台風による倒木が発生したため、立入禁止ロープ、看板を設置。



(写真 1 3)

【福島県植生復元調査】

シカの食害影響調査に同行。
(大江湿原)



(写真 1 4)

【外来植物駆除】

小沢平口付近にて、関係者と協力し外来植物オオハンゴンソウの駆除作業を実施。

コラム 尾瀬自然解説ガイド ～ビジターセンターのサポート～

尾瀬自然解説ガイドとは ～自然に親しむお手伝い～

主に滞在時間の短い入山者を対象にした自然解説のためのガイドです。自然に親しむとともに、マナーの向上を図り、尾瀬の適正な利用を推進することが目的です。参加料は1人当たり500円～1,500円で、保険料や緊急時の無線機購入などの事務費に充てています。ガイド本人には、鳩待峠・御池～現地までのバス代などの一部を補う程度で、給与や報酬は支給していません。なお、尾瀬自然解説ガイドの催行はビジターセンターが起点、終点になっています。

活動の意義 ～尾瀬を深く理解してもらうために～

尾瀬サミット2002で、尾瀬におけるガイドの役割とガイド資格の課題が議論されたことをきっかけに、財団のガイド事業への取組が始まりました。財団では、尾瀬に対する理解を深めてもらうためには、尾瀬の自然の素晴らしさを実感してもらうことに加え、尾瀬の自然保護に対しても十分理解してもらうことが必要だと考えています。ガイドは、尾瀬の魅力や大切さを掘り下げて利用者に伝えることのできる担い手です。尾瀬自然解説ガイドの利用を通じて、多くの入山者に貴重な尾瀬の自然を体感してもらえるよう活動を続けています。

活動の実績

年度	合計利用者数(人)	尾瀬ヶ原ガイド利用者数 (人)	尾瀬沼ガイド利用者数(人)
18	240	190	50
19	252	245	7
20	452	448	4
21	294	290	4
22	292	292 (内尾瀬学校は 113)	0
23	239	197 (内尾瀬学校は 135)	42
24	642	450 (内尾瀬学校は 372)	192
25	890	633 (内尾瀬学校は 558)	257 (内環境学習は 255)
26	155	155 (内尾瀬学校は 122)	—
27	487	477 (内尾瀬学校は 415)	10
28	379	322 (内尾瀬学校は 256)	57
29	458	444 (内尾瀬学校は 321)	14
30	355	341 (内尾瀬学校は 194)	14
01	274	263 (内尾瀬学校は 151)	11

信頼される自然解説ガイドを目指して ～質の高いガイドの人材を確保～

ガイド事業の成否を決めるのは、ガイドの質そのものです。尾瀬自然解説ガイドでは、IP（インタープリテーション）研修を受講済みの尾瀬ボランティアの方を対象に、導入研修を実施し、レポートの提出・現地研修をもって、ガイド登録を行っています。現在18名のガイドが登録されています。

また、催行中の事故等にも対応できるよう、3年おきに救急救命講習の受講を義務づけたり、既登録者対象の技術研修を実施するなど、ガイドレベルの維持向上に努めています。

ビジターセンターとの連携 ～利用者の安全のために～

尾瀬自然解説ガイドは無線機を持ち歩き、ビジターセンターと連絡を取り合っています。それは、ビジターセンターにガイド状況を適切に伝えることにより、ガイド利用者の安全を確保していくためです。尾瀬はラムサール条約に登録され、また単独の尾瀬国立公園に指定されたことにより、さらなる注目を集めています。安心して安全な尾瀬利用を確保するため、安全確保に対するガイドの質も重要になっていくことでしょう。～ ビジターセンター利用者みなさま、これからも充実した運営のためにご意見をお願いします。

コラム 一般の方から寄せられた声

～ビジターセンターに寄せられた声から～

- ◇ もう少し木道を綺麗にしてもらえると大変助かります。傾きや、穴があいていたりしていたので綺麗にしてほしいです。
- ◇ 鳩待峠からアヤメ平へ向かいましたが、残雪が多く引き返しました。ホームページでアヤメ平方面の情報も教えてもらえると有難いです。
- ◇ トイレのお金を払わないといけなくて、絶対山の鼻V Cの入館の時にもお金を必要とした方がいいと思います。
- ◇ 写真のスポットに看板を立てたらどうですか。
- ◇ 至仏山にトイレを設置してほしい。
- ◇ 尾瀬は綺麗だった。ニッコウキスゲの見ごろの季節で緑の中に見える黄色がすごくよかった。でも、写真で見た満開の花とは違って少しだけ残念だったから、来年は緑がすべてニッコウキスゲで埋まった景色が見たい。
- ◇ 植物の看板がほしい。手摺がほしい。
- ◇ 場所柄、このような施設ができるのでしょうか、どこの山にもほしい。あるとないとは違う。とても興味深く見れ、教養深まりました。
- ◇ 沼尻から見晴の間を通行止めに、人の通る道では無い、雨の日は特に危険、命に係わる。
- ◇ いろいろな動物のはく製がありふだん触れないツキノワグマやキジに触れてとても良かった。どうかこれからも頑張ってください。
- ◇ ガイドさんが優しかった。いろいろ話してくれて知らない生物が分かった。
- ◇ とても歩きやすくて便利です。めずらしい植物がたくさん見られて楽しいです。また来たいと思います。
- ◇ 雨でしたので屋根のあるところが少なくお昼を食べるのが大変でした。もう少し屋根のある持ち込み可能なスペースがあると嬉しいです。
- ◇ オコジョを見れなかったが、尾瀬は好きです。
- ◇ 私は鳥の声を聴けるのがいいと思います。もっとオコジョの事を書いてほしいです。これからもよろしくお願いします。
- ◇ とてもきれいでした。カメムシが多い、尾瀬にはいろいろな木があることがわかりました。

以下尾瀬沼分

- ◇ ぜひ入山料徴収して道の整備や保護を積極的に!!一人 1000 円以上。
- ◇ 燧ヶ岳に登りたいと思っていますがトイレが心配です。携帯トイレを使えるようなスペースがあるといいなと思います。
- ◇ 尾瀬全体の位置図などを無料で配付したりするのもいいのではないかと思います。
- ◇ ドローンを使った視線もプラスしてあればいいと思います。
- ◇ すばらしいサービスだと思います。今後も充実した企画を期待しています。ただし、45分の予定が大きく伸びてしまっていました。時間は守ってほしい。
- ◇ 自然観察会は午後にもおこなって欲しい。夜のスライドショーも日曜の夜にもやって欲しい。
- ◇ 尾瀬について学ぶ企画はとても良いと思います。植物や生物の特性についてクイズや実物に触る、見るなど、参加型の企画は楽しめるのではないかと思います。
- ◇ ホームページなどでロッカーなどの設備の詳しい説明を載せて欲しいです。
- ◇ 大変詳しく紹介されていて感心しました。最新情報(花、足場状態、残雪情報)ありがたいです。
- ◇ 展示が変化していて楽しみです。
- ◇ ビジターセンターの人たちが親切で、山のぬかるみの情報を聞いて出かけてよかったです。
- ◇ ビジターセンターにおいて尾瀬の自然を守ろうという意気込みが感じられた。
- ◇ ブログを毎日見ています。詳しい尾瀬の様子が見て取れて楽しみにしています。
- ◇ 尾瀬への理解が深まる取り組みに感謝します。学ぶことで興味が深くなります。
- ◇ 毎回、その人なりの個性ある説明が聞けるのでビジターセンターに来るのを楽しみにしています。
- ◇ ツアー、展示すばらしく、再訪したい。楽しかった。
- ◇ 山道や施設が良く整備されていて快適です。これからもこの状態を維持してもらえたら嬉しいです。
- ◇ トイレが大変綺麗でとてもうれしい。

巻末資料 1

令和元年度 ビジターセンター傷病者対応事例

尾瀬山の鼻ビジターセンター対応事例（担架搬送、ヘリ搬送したものを抜粋）

木道上の転倒	右足首を強打し裂傷と骨折の疑いがあり、自力歩行困難なため見本園よりヘリ搬送。
--------	--

尾瀬沼ビジターセンター対応事例（担架搬送、ヘリ搬送したものを抜粋）

木道上の転倒	シャーベット状の木道上で転倒、骨折の疑いがあり自力歩行困難のため尾瀬沼北岸よりヘリ搬送。
木道上の転倒	雨天時木道上で転倒、自力歩行困難なため大江湿原付近より消防署が担架搬送。
木道上の転倒	木道上で転倒、自力歩行困難なため大江湿原付近より救助隊が担架搬送。
疲労	疲労による腰痛になり、自力歩行困難なため尾瀬沼北岸より山小屋まで救助隊が担架搬送。（翌日自力下山）
木道上の転倒	木道上で転倒、骨折の疑いがあり自力歩行困難のため白砂湿原よりヘリ搬送。
木道上の転倒	木道上で転倒、骨折の疑いがあり自力歩行困難のため尾瀬沼南岸よりヘリ搬送。
木道上の転倒	木道上で転倒、骨折の疑いがあり自力歩行困難のため三平下よりヘリ搬送。

巻末資料 2

－ 令和元年度 尾瀬のできごとをふりかえる －

令和元年度は例年より残雪の多いシーズンが始まり、尾瀬ヶ原のミズバショウは例年どおり6月上旬には見頃を迎える幕開けとなりました。昨年7月には山ノ鼻地区では真夏日を13日間記録しましたが、今年は一変し長梅雨となり、10月には台風19号の影響から木道の冠水と倒木が発生しました。

また、昨年減少したツキノワグマの目撃(85件)に対して、今年は149件と増加する結果となりました。

なお、傷病対応件数も昨年とほぼ同数となりました。要因としては、木道での転倒災害が全体の39%を占める結果となりました。

尾瀬ヶ原周辺のできごと (尾瀬山の鼻ビジターセンター報告)		尾瀬沼周辺のできごと (尾瀬沼ビジターセンター報告)	
4月			
16	開設準備のため上山(除雪作業)		
20	鳩待峠までの道路通行止め解除		
"	山の鼻公衆トイレ供用開始		
5月		5月	
9	管理員上山	9	研修のため山ノ鼻へ上山
10	木道劣化診断研修	10	木道劣化診断研修
11	ツキノワグマ研修	11	ツキノワグマ研修
14	ビジターセンター開所式・ミニツアー開始	14	管理員尾瀬沼へ上山
15	防鹿柵設置(竜宮)	18	御池～沼山峠間バス運行開始
17	夜のスライドショー開始	"	沼山峠で電気バス運行記念式典
18	朝の観察会開始	"	ビジターセンター開所
"	防鹿柵設置(研究見本園)	"	尾瀬を知るミニツアー開始
22	下ノ大堀木道補修	"	夜のスライドショー開始
31	テンマ沢・見本園クマ鐘設置		
"	防鹿電気柵設置		
6月		6月	
1	ごみ持ち帰り運動(鳩待峠口)	1	ごみ持ち帰り運動(沼山峠口)
"	轟音玉講習会	"	ごみ持ち帰り運動(大清水口)
2	轟音玉講習会	"	轟音玉講習会
12	鳩待峠～山の鼻間木道栈木打実施	2	轟音玉講習会
16	山ノ鼻公衆トイレ周辺外来植物除去実施	5	消防訓練を実施
22	至仏山東面登山道踏み出し防止柵設置 (尾瀬ボランティアが協力)	8	大江湿原シカ柵設置ボランティア
"	イベント「尾瀬沼」	9	田代山安全祈願祭
30	至仏山東面登山道立入禁止柵設置	15	大清水～一ノ瀬間 低公害車運航開始
		17	消防点検
		22	菅家環境省政務官 尾瀬沼地区視察
		29	小沢平外来種オオハングンソウ駆除

7 月	1 至仏山山開き " 至仏山東面登山道栈木打ち実施 3 イベント「県立尾瀬高等学校の活動」 1 1 笠ヶ岳登山道踏み出し防止柵設置 1 4 イベント「歩荷」 1 6 クマ対策見本園刈払い 1 9 至仏山東面登山道刈払い実施 7/30- 尾瀬子どもサミット 8/2	7 月	1 燧ヶ岳夏山開き 3 見晴休憩所で夜のスライドショー実施 (9/25 まで計 7 回実施) 9 福島県植生復元作業 1 3 暑中見舞いイベント開始 (8 月 8 日まで) 1 8 沼山峠ボランティアハウス設置 2 0 ナイトハイク実施 " 夏の特別星空観察実施 3 1 VC 内 PCB 調査実施
8 月	1 クマ注意看板設置(見本園/尾瀬ヶ原) 6 テンマ沢湿原クマ対策刈払い 1 1 イベント「星について考える夜」 2 3 原の川上川橋付近クマ鐘設置 3 1 イベント「尾瀬の日」 山の鼻ビジターセンター敷地内刈払い実 " 施	8 月	8~10 山の日特別スライドショー実施 10~12 夏の手ぬぐいワークショップ実施 1 9 「あの人に学ぶ尾瀬 尾瀬高校をしてく いますか？」実施
9 月	1 3 イベント「尾瀬で楽しむ 中秋の名月」 15-16 至仏山東面登山道栈木打ち実施 2 1 イベント「尾瀬の成り立ち」 2 7 山の川上川橋流木処理実施 2 8 横田代栈木打ち実施	9 月	12~14 お月見イベント実施 1 5 来館者 35,000 人達成イベントを実施 2 2 「あの人に学ぶ尾瀬 歩荷さん知って いますか？」実施 2 8 あの人に学ぶ尾瀬 植生回復の取組み を知らう」実施 2 9 職員手作り紙芝居「万里姫物語」実施
10 月	1 1 テンマ沢・見本園クマ鐘撤去 1 2 笠ヶ岳柵外し " 「ありがとう尾瀬」清掃 1 6 山の川上川橋流木処理実施 16-17 防鹿柵撤去(見本園・竜宮・背中アブリ) 2 0 「ありがとう尾瀬」清掃 2 1 八木沢道支障木処理実施 2 4 至仏山東面登山道踏み出し防止柵撤去 2 6 スライド最終日 2 7 VC 閉館 2 8 見晴沼尻川橋橋板撤去 2 9 牛首付近木道補修	10 月	5~6 「秋の特別企画紅葉ウォーキング」実施 1 3 台風 19 号通過後、尾瀬沼南岸、三平峠に 多数の倒木発生。 " 台風の影響により、大清水～一ノ瀬間の低 公害車の本年度の運行終了 1 4 台風による倒木のため、尾瀬沼南岸の通行 止め実施 1 9 大江湿原シカ柵撤去 " 夜のスライドショー最終日 2 1 巡回最終日(尾瀬沼) 2 3 東北電力の作業のため一時停電 2 6 東北電気保安協会の作業のため一時停電 2 8 沼山峠ボランティアハウス撤去 3 0 尾瀬を知るミニツアー最終日 " VC 閉館
1 1 月	1 管理員下山 5 下ノ大堀川橋橋板撤去	1 1 月	1 管理員下山

6	職員下山		
21～22	第一回冬季調査		

巻末資料 3

～ 令和元年シーズンの尾瀬トピックス ～

- ☆ 令和元年度は例年より残雪の多いシーズンが始まり、尾瀬ヶ原のミズバショウは例年どおり 6 月上旬には見頃を迎える幕開けとなりました。
- ☆ 尾瀬山の鼻ビジターセンターの開所式が行われ(5 月 14 日)、尾瀬ボランティアによるハーモニカと草笛の演奏が披露されました。
- ☆ 尾瀬沼集団施設地区では、再整備工事が進んでいます。
- ☆ 尾瀬山開きが、奥只見湖畔(新潟県側)で開催されました。(6 月 4 日)
- ☆ 大清水口から一ノ瀬まで低公害車両による乗合運行が 6 月 15 日から開始されました。終了は 10/20※その年の天候や路面状況で年によって変更あり。
- ☆ 尾瀬沼地区で 3 県(群馬、福島、新潟)主催の「尾瀬子どもサミット」が開催されました。3 県の小中学生 58 名(定員 60 名)が集まり、尾瀬の自然について体験し、学ぶとともに交流を行いました。(7 月 30 日～8 月 2 日)
- ☆ 鳩待峠～山ノ鼻間でツキノワグマによる事故防止のため関係者によってテンマ沢湿原周辺のより広い範囲の草刈りを実施しました。(8 月 6 日)
- ☆ 自然保護や適性利用について一層推進していくための「尾瀬サミット」が新潟県「緑の学園」で開催された。(9 月 3 日～9 月 4 日)
- ☆ 大型の台風 19 号の影響で尾瀬ヶ原では一部木道が冠水や流出が発生した。尾瀬沼周辺、沼山峠、三平峠で多くの倒木が発生しました。(10 月 19 日)
- ☆ 燧ヶ岳/至仏山の初冠雪が 11 月 4 日例年に比べ遅くなりました。
- ☆ 山の鼻ビジターセンター au 携帯電話基地局工事により au 携帯電話、無料 Wi-Fi 「OZE GREEN Wi-Fi」が利用可能となりました。
- ☆ 今年度の尾瀬国立公園の入山者は 247,700 人と 4 年連続で 30 万人を下回る結果となりました。
- ☆ 尾瀬の認知度を高めるとともに尾瀬の多様な魅力を国内外に発信することを目的に、尾瀬国立公園および周辺地域にある自然景観、文化、人々の暮らし、食、イベント等を発信するため、尾瀬公式 Instagram を開設しました。
- ☆ 群馬県管理木道の「下ノ大堀川橋」が架け替えられた。

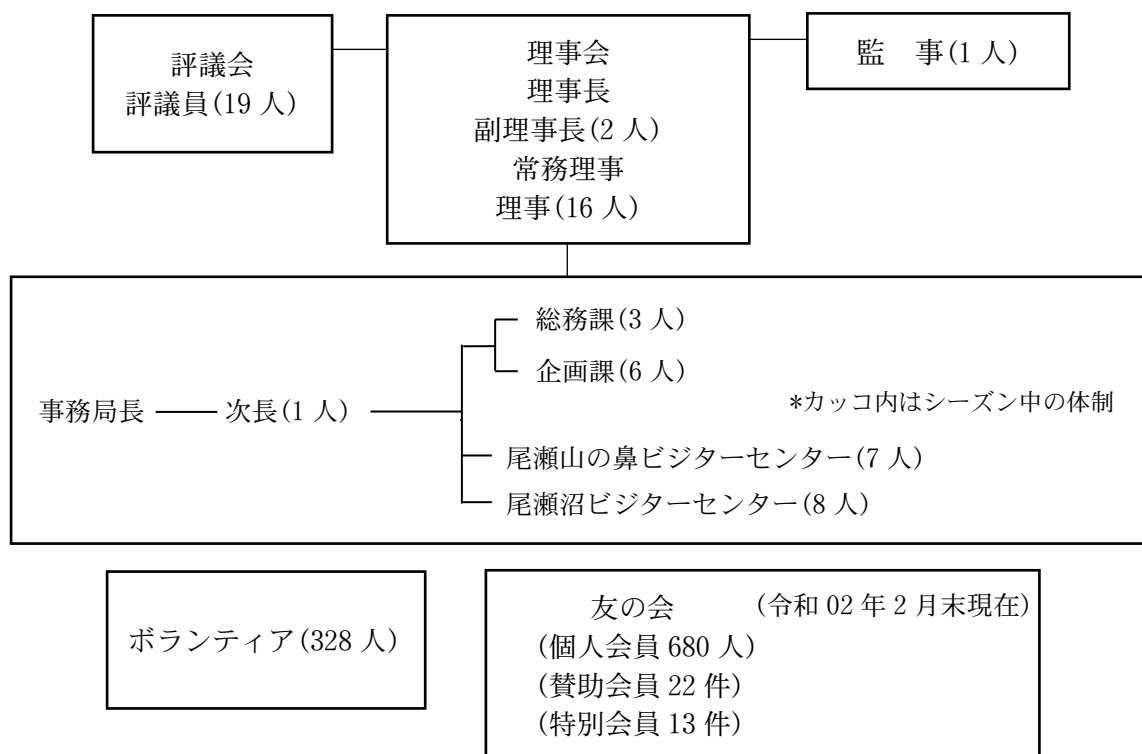
尾瀬保護財団の沿革と概要

財団の沿革

平成 4 年 8 月 4 日	福島・群馬・新潟三県知事による「尾瀬サミット」(尾瀬沼山荘)
平成 7 年 6 月 13 日	財団設立発起人会(東京都内)
" 8 月 3 日	財団設立、第 1 回理事会(尾瀬沼ヒュッテ) 群馬県大友庁舎(前橋市大友町)に事務所設置
平成 8 年 5 月 15 日	尾瀬沼ビジターセンターの運営開始(環境庁から受託)
" 5 月 18 日	尾瀬山の鼻ビジターセンターの運営開始(群馬県から受託)
平成 9 年 4 月 1 日	群馬県公社総合ビル(前橋市大渡町)に事務所移転
平成 11 年 7 月 13 日	特定公益増進法人に認定(財団への寄附につき税制上の優遇措置が受けられる制度。以後 2 年毎に認定を更新)
" 9 月 3 日	群馬県庁(前橋市大手町)に事務所移転
平成 25 年 4 月 1 日	内閣総理大臣により「公益財団法人」への移行が認められる

財団の概要

- ・ 設立日 平成 7 年 8 月 3 日
- ・ 基本財産 約 15 億円(平成 29 年度末現在)
- ・ 主な事業 入山者啓発、自然解説、植生復元、施設管理、調査研究、顕彰事業など
- ・ 組織体制



施設概要

- ・ 尾瀬山の鼻ビジターセンター
設置者：群馬県
鉄骨木造 2 階建 延床面積 344 m² 平成 5 年築
展示室 69 m² レクチャールーム 80 m² 事務室 17 m²
- ・ 尾瀬沼ビジターセンター
設置者：環境省
鉄骨木造 2 階建 延床面積 493 m² 昭和 60 年築
展示室 132 m² レクチャールーム 99 m² 事務・会議室 32 m²

この冊子について

この冊子は、公益財団法人尾瀬保護財団が受託運営する尾瀬山の鼻と尾瀬沼の両ビジターセンターの令和元年度実績報告をまとめたものです。活動の概要を関係者へ報告するとともに、今後の運営資料として活用するために作成しています。

☆集計方法について

ビジターセンター入館者数 公衆トイレ利用者数

- ・ 施設に設置されているセンサーで自動計測した結果をそのまま集計しています。
- ・ 停電等により計測に不具合があった場合は、適宜補正しました。また自動計測のため、例えば行列や感知器の前に障害物がある場合には実際との誤差が発生しますが、これについては補正していません。公衆トイレについては山ノ鼻のみセンサーが設置されています。

その他

- ・ 比率（％）で示した数値は、すべて小数点以下第2位を四捨五入しています。
- ・ 本文中に「V C」とある場合は、「ビジターセンター」と読み替えてください。

令和元年度

尾瀬山の鼻・尾瀬沼ビジターセンター運営記録

令和2年2月

〒371-8570 群馬県前橋市大手町一丁目1番1号

公益財団法人 尾瀬保護財団

Tel (027)220-4431

fax (027)220-4421

ホームページアドレス <https://www.oze-fnd.or.jp/>

E-mail アドレス info@oze-fnd.or.jp

ビジターセンターの 自然体験プログラム

— お問い合わせは —
公益財団法人 尾瀬保護財団
〒371-8570 群馬県前橋市大手町 1-1-1
TEL 027-220-4431
FAX 027-220-4421
E-mail : info@oze-fnd.or.jp

ビジターセンターでは利用者に尾瀬の自然の大切さを知ってもらい、マナーを守りながら利用してもらうためのさまざまなイベントを催しています。

ビジターセンターは山ノ鼻（尾瀬ヶ原の入口）と、尾瀬沼の東畔にあります（表紙裏の地図参照）。散策前に是非立ち寄ってみてください。

※ 天候等により実施しない日もありますので、事前に財団へお問い合わせください

窓口	展示
スタッフが尾瀬のことにお答えします 窓口時間 山の鼻 VC 7:30～16:00 尾瀬沼 VC 7:30～16:00	尾瀬のことがわかりやすくまとまっています。 開館時間 山の鼻 VC 7:00～18:00 尾瀬沼 VC 7:30～16:00
尾瀬情報	ビデオ上映
花の見頃や登山道の様子が毎週更新されています。 お出かけの前にチェックしてみてください。 尾瀬情報は尾瀬保護財団ホームページでも掲示しています。 URL https://www.oze-fnd.or.jp/	尾瀬のビデオが上映されています。 山の鼻ビジターセンターで上映 Hi-Vision「驚異の食虫植物モウセンゴケ」(20分) Hi-Vision「トンボ」(18分) Hi-Vision「クモ」(18分) 「尾瀬その成り立ちとしくみ」(16分) 「尾瀬はふるさとー空を渡る生き物たちー」(10分) 尾瀬沼ビジターセンターで上映 「尾瀬国立公園の四季」(16分) 「尾瀬沼の四季」(13分) *ほかにさまざまなビデオがあります。
セルフガイド	スライドショー
一人でも自然観察ができるガイドマップが揃っています。 「鳩待峠～尾瀬ヶ原」「研究見本園」「大清水～尾瀬沼」 「アヤメ平」「燧裏林道」「尾瀬沼」などがあります。	スライドのはなしを聞きながら尾瀬の不思議を知る 「今日のショーはあるの?」と利用者から尋ねられる程の定番企画です。まずは参加してみてください。 土日祭日の前夜 山の鼻 VC : 18:30～19:10 尾瀬沼 VC : 19:00～19:45 ※ 開催時期についてはお問い合わせください。
自然観察会	団体レクチャー
一緒に湿原へ出てみましょう! 周辺の湿原で動植物の観察をしながら散策をします。 山の鼻 VC 7:15～8:00, 尾瀬沼 VC 9:30～10:00 等 ※ 開催時期についてはお問い合わせください。	グループで尾瀬を学びたいので、案内して欲しい事前に申込みのあった団体には、観察会やスライドショーなどのプログラムを実施しています(要予約)。
企画展示	拡大イベント（尾瀬沼 VC にて実施）
尾瀬を深く知るための特別展示です。 ※ 開催時期・内容についてはお問い合わせください。	専門家をお招きすることで、より深く専門性の高いイベントを実施しています。※開催時期についてはお問い合わせください。
尾瀬自然解説ガイド	
実施日を限定して、自然解説ガイドが短時間のガイドをします (コース限定、有料、要予約)。 ※ 開催日についてはお問い合わせください。	
お話しボランティア	
平日の休憩ベンチには個性豊かな解説ボランティアがいます。 ※開催時期や内容についてはお問い合わせください。	

この他、ビジターセンターに関する色々な情報は、尾瀬保護財団のホームページをご覧ください。